

学童通学路における犯罪発生空間の特性に関する調査分析

- 千葉県浦安市・流山市・船橋市の小学校区を例として -

日大生産工(院) ○松井 創

日大生産工 坪井 善道

1. 研究の背景と目的

近年学童通学路における子供連れ去りや、住宅への侵入窃盗などの事件が多発している。通学路とは一般に子供たちの登下校における交通安全を確保するために設定された道路を指す。その設定方法は地域によって異なり、全国一律の基準はない。文部科学省が平成13年に作成した安全教育参考資料では「交通事情等を配慮し、教育委員会をはじめとした関係機関と協議し、可能な限り安全な通学路を設定する」ものとしている。また、「通学路の安全管理については、交通安全だけでなく暴力や誘拐等に対する防犯の観点からも対策が必要である」としている。しかし、通学路の中には交通安全の観点からのみで設定されている状況が多いことが現状である。

本研究では、千葉県の中でも防犯の意識が高く犯罪情報を公開している浦安市・流山市・船橋市の3都市を対象とし、地図ソフトを用いて犯罪情報をプロットすることで、危険箇所を抽出し、防犯の観点からの各小学校区内の通学路の設定をする際の問題点を明らかにすることを目的としている。

本稿では、その前段として3都市における犯罪集中エリアを明確にし、学校区ごとの危険箇所の抽出を行うため、犯罪種別に分布図を作成し、犯罪発生の多い小学校区の特性を検証した。

2. 調査方法

情報公開が開始されたことがここ近年とい

うこともあり、平成17年から平成18年8月までに、各都市のHPに記載されている共通の犯罪情報である、空き巣、車上ねらい、ひったくりの件数を小学校区ごとに集計し、発生場所を地図上にプロットする。

また、千葉県警が独自に集計した不審者目撃情報を小学校区ごとに分類し、犯罪発生場所と比較することで、犯罪が発生しやすい空間を特定する。

3. 各都市の基礎データ

この3都市は防犯に対する意識が高く、より詳細な犯罪情報を市民に提供している。船橋市では平成16年に市民防犯課が発足し、防犯活動を行っている。浦安市では、地域住民によって運営されている民間防犯組織があり、犯罪発生多発場所に防犯灯の設置などを行っている。流山市では34の自主防犯パトロール隊があり、地域防犯活動を行っている。各都市の小学校数は船橋市、浦安市、流山市の順に55校、17校、15校となっている。また、近年の犯罪データは以下の通りである。

表1 刑法犯認知件数

	平成15年	平成16年	平成17年
浦安市	5,015	5,339	4,164
流山市	3,297	3,321	3,305
船橋市	17,793	14,187	12,571

表2 人口1万人当たりの犯罪発生件数(平成17年)

	(人口)	(件数)
浦安市	151,862	274.2
流山市	152,409	216.9
船橋市	567,949	221.3

4. 犯罪別発生集中エリアの抽出

4-1. ひったくり

浦安市

浦安市は他の2都市と異なり、ひったくりの全体総数が少なく、発生場所の詳細も公開されていないため、集中した小学校区は抽出できなかった。エリアとして、浦安市北部の校区に多く発生している傾向が見られた。

流山市

江戸川台小学校区が突出して多く、全体の3割がこの区域で発生していた。流山市北部の校区で多発している傾向が見られた。特に

集中しているエリアとして、線路沿い、駅前付近、小学校周辺である。集合住宅地よりも戸建住宅密集地の公園周辺で多発している傾向が見られた。

船橋市

船橋小学校区、葛飾小学校区、小栗原小学校区の順に多かったが、特に突出して多い校区はなく、件数はほぼ横ばいだった。船橋市南部の校区に多い傾向が見られ、特に集中しているエリアとして、線路沿い、駅前、公園付近である（図1参照）。

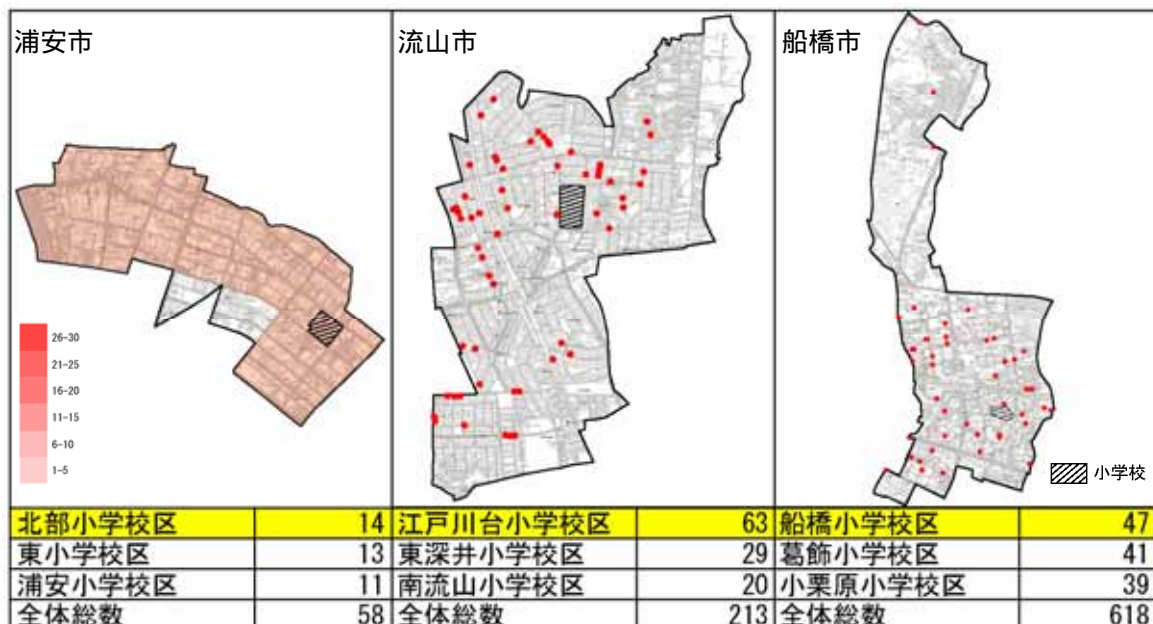


図1 各都市におけるひったくり件数上位3校区（平成17年～平成18年8月）

4-2. 空き巣

浦安市

南小学校区、舞浜小学校区、北部小学校区で全体の半数以上を占めており、浦安市北部、東京都江戸川区に近い校区で多い傾向が見られた。特に集合住宅地よりも戸建住宅地で高い値を示していた。

流山市

東深井小学校区、南流山小学校区、江戸川台小学校区の順に多く、流山市北部・南部の校区に多い傾向が見られた。特に集中しているエリアに線路沿い、駅前付近、小学校、公園付近に高い値を示す傾向が見られた。

町丁目ごとに集計されるため、東深井小学校区の場合通学区域が東深井のみのため、分布図に差異が見られないので、図2では南流山小学校区を掲載している。

船橋市

前原小学校区、葛飾小学校区、小栗原小学校区で特に件数が多く、船橋市南部・南東部の校区に多い傾向が見られた。この校区では線路で囲まれた地域に集中が見られた。他の校区でも駅前、線路沿いの地域が高い値を示していた。特に戸建住宅地よりも集合住宅地で多く発生している傾向が見られた（図2参照）。

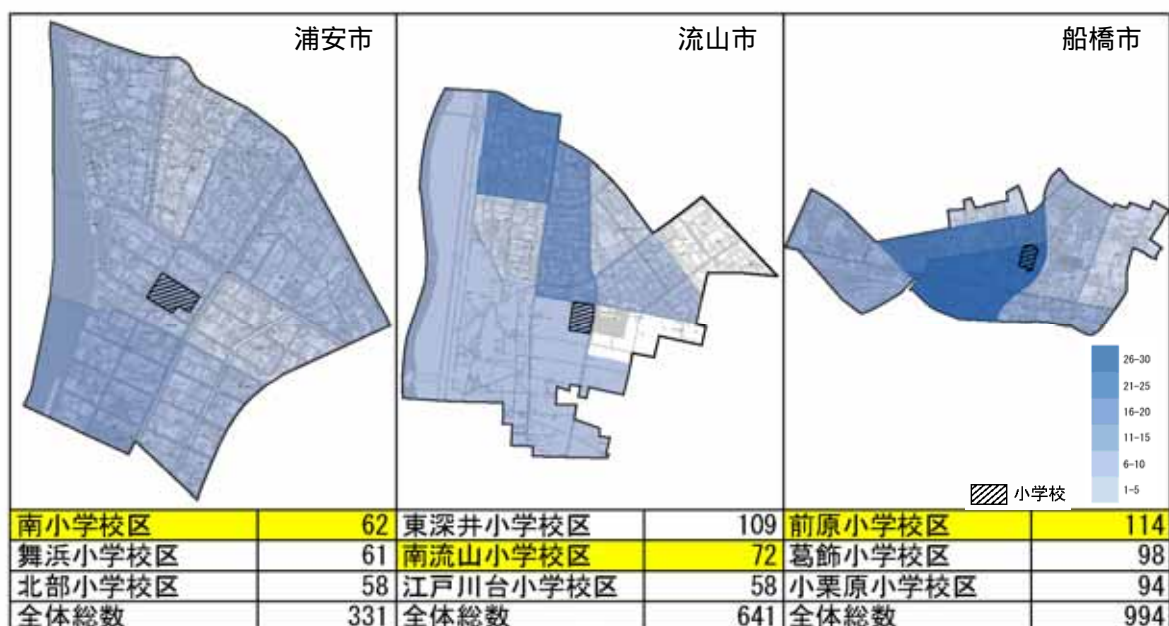


図2 各都市における空き巣件数上位3校区（平成17年～平成18年8月）

4-3. 車上ねらい

浦安市

南小学校区，舞浜小学校区，北部小学校区の順に多く，浦安市北部と南部，東京都江戸川区に近い校区で多く発生している傾向が見られた。特に集合住宅が多い地区で高い値を示す傾向が見られた。

流山市

南流山小学校区，鱈ヶ崎小学校区，八木北小学校区の順に多く，流山市中部・南部の校区に多い傾向が見られた。南流山小学校区で

は，空き巣の分布図と同様のエリアが高い値を示す傾向が見られた。特に集中しているエリアとして，線路沿い，駅前付近，小学校付近である。

船橋市

船橋小学校区で一番発生件数が多かったが，その他でも50件近辺の校区が多数見られ，船橋市全域に平均的に分布している傾向が見られた。特に集中しているエリアとして駅前付近，線路沿い，線路に囲まれた地区に高い値を示す傾向が見られた（図3参照）。

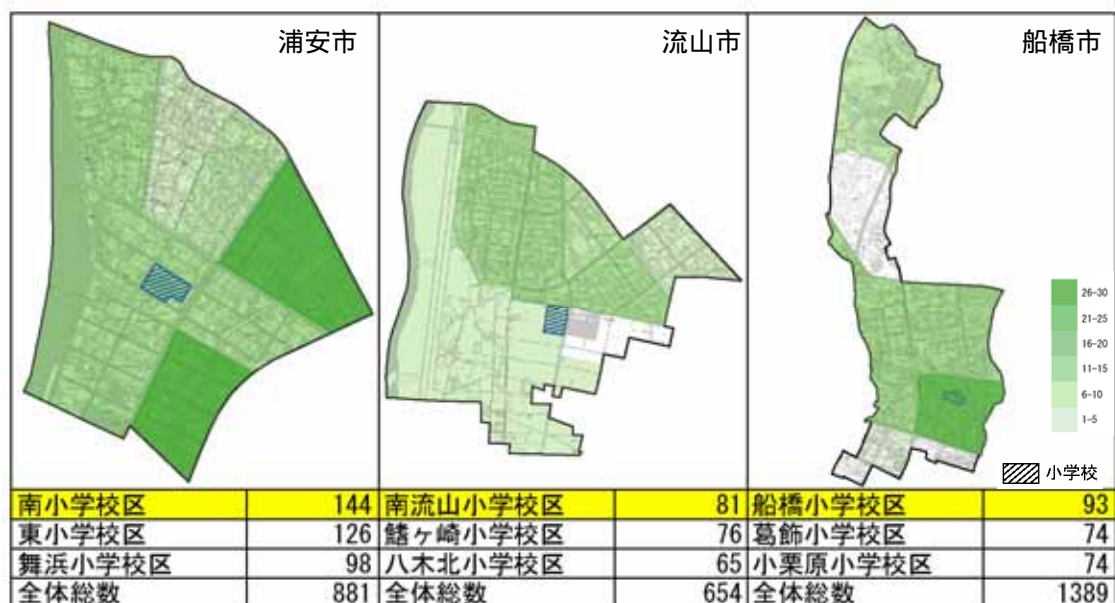


図3 各都市における車上ねらい件数上位3校区（平成17年～平成18年8月）

5.不審者目撃エリアの検証

千葉県警 HP で公開している暮らしの安全マップを基に作成した。特に多い校区としては、船橋市船橋小学校区 19 件、行田東小学校区 13 件、塚田小学校区 12 件であった。不審者が目撃されるエリアとして、公園周辺、小学校等公共施設周辺、密集住宅地に比較的多く見られた。昨年からの集計が開始されたこともあり、目撃情報の少ない浦安市、流山市はともに集中した校区は見られなかった。図 4 では目撃情報の多い船橋市の小学校区のみで比較している（図 4 参照）。

6.まとめ

今回の分析で得られた結果を以下にまとめる。

- ・ 犯罪の種類によって分布形状が異なる。
- ・ 都市により犯罪の多い校区に偏りがある。
- ・ 都市ごとに、住宅地であっても犯罪の多い地区と少ない地区がある。
- ・ 犯罪の種類により分布形状は異なるが、特に集中しているエリアとして共通しているのは、線路沿い、駅前周辺、小学校等公共施設周辺、住宅地公園付近である。
- ・ 戸建住宅地と集合住宅地では、発生する割合の高い犯罪が異なり、戸建住宅地では空き巣、集合住宅地では車上ねらいが多い傾向が窺える。

今後は、現在設定されている各小学校区内通学路と犯罪発生場所の空間特性との関係を明らかにする必要がある。

さらに、今回の分析では、千葉県の 3 都市に限り行ったが、これから犯罪情報を公開する都市を対象に、より多くの都市を分析し、検証していくことが必要である。

<参考文献・URL>

- 1) 浦安市 HP
<http://www.city.urayasu.chiba.jp/>
- 2) 浦安市防犯協会 HP 最新犯罪情報
<http://www.u-cp.jp/>
- 3) 流山市防犯協会 HP 事件発生ファイル
<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/section/seikatuanzen/bouhan/kyoukai/kyoukai-top.htm/>
- 5) 船橋市市民防犯課 HP 犯罪発生状況
<http://www.city.funabashi.chiba.jp/bohan/top.htm>
- 6) 千葉県警 HP 暮らしの安全マップ
http://www.police.pref.chiba.jp/safe_life/gis/
- 7) 山本俊哉氏著：「防犯まちづくり」 株式会社ぎょうせい発行
- 8) 湯川利和氏著：「まもりやすい集合住宅」 学芸出版社
- 9) 文部科学省著：安全教育参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」
- 10) 樋村恭一，小出治：「都市空間と犯罪に関する研究」 - 地理情報システムを活用した犯罪発生分布の可視化 - 日本建築学会学術講演梗概集 2002 年 8 月 P589～P590
- 11) 樋村恭一，飯村治子，小出治：「犯罪不安喚起空間と犯罪発生空間の関係に関する研究」日本都市計画報告集 No.2 2003 年

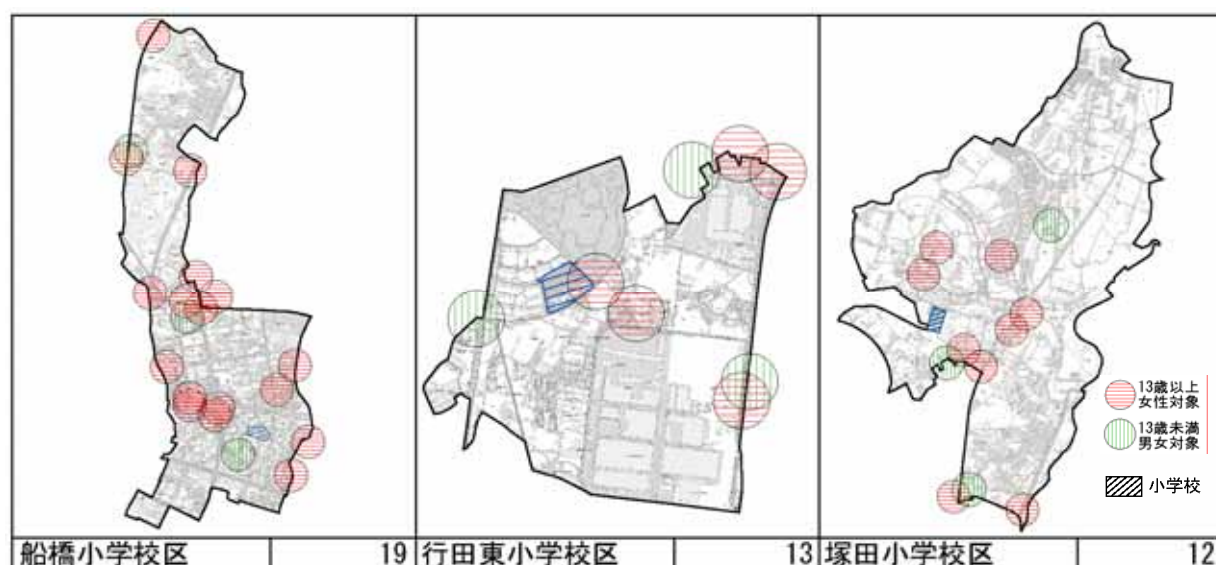


図 4 船橋市における不審者目撃情報件数上位 3 校区(平成 17 年～平成 18 年 8 月)